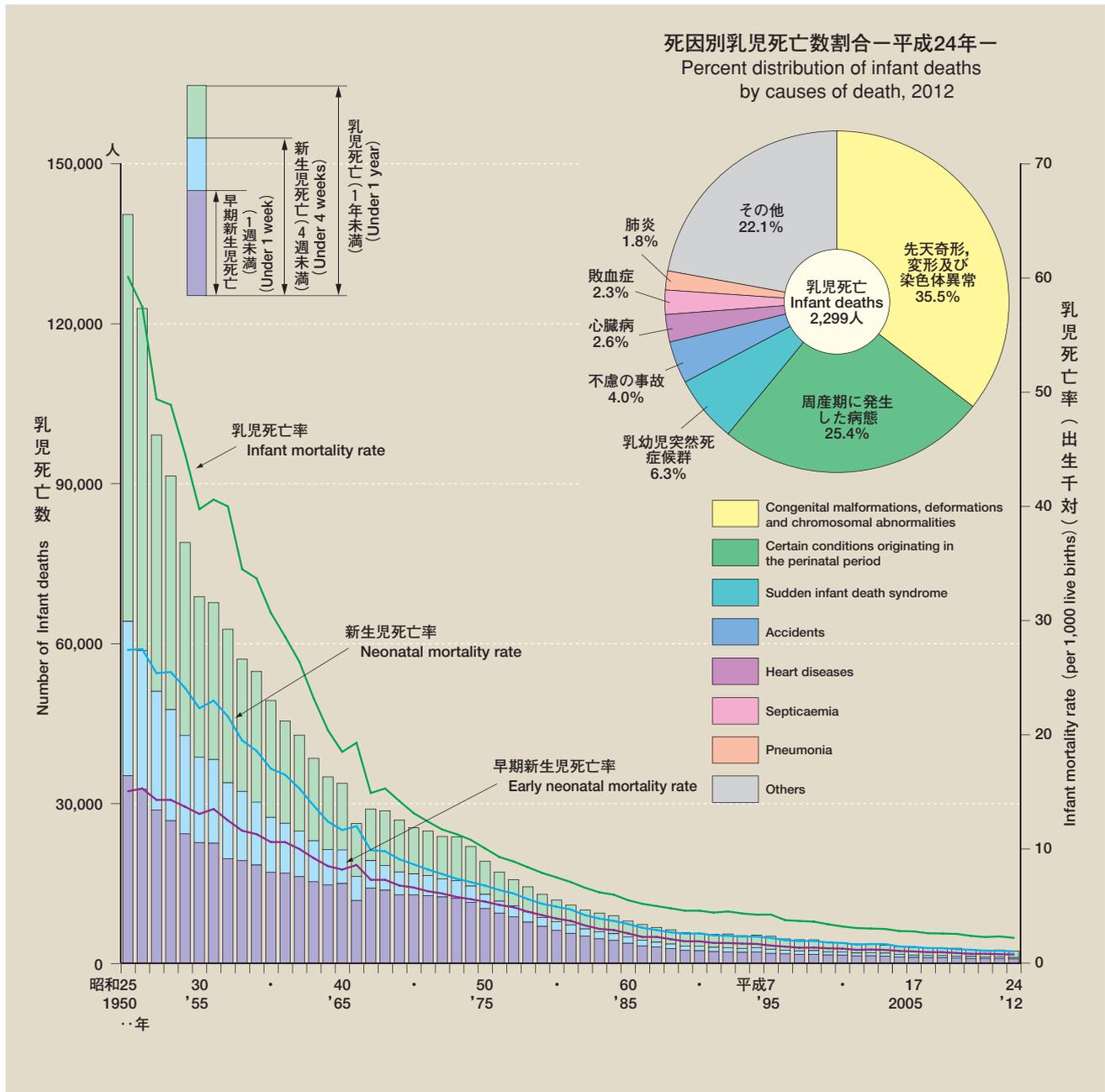


乳児死亡の動き Infant mortality

乳児死亡率は低下傾向

乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移—昭和25～平成24年—
Trends in infant deaths and infant mortality rates, 1950—2012



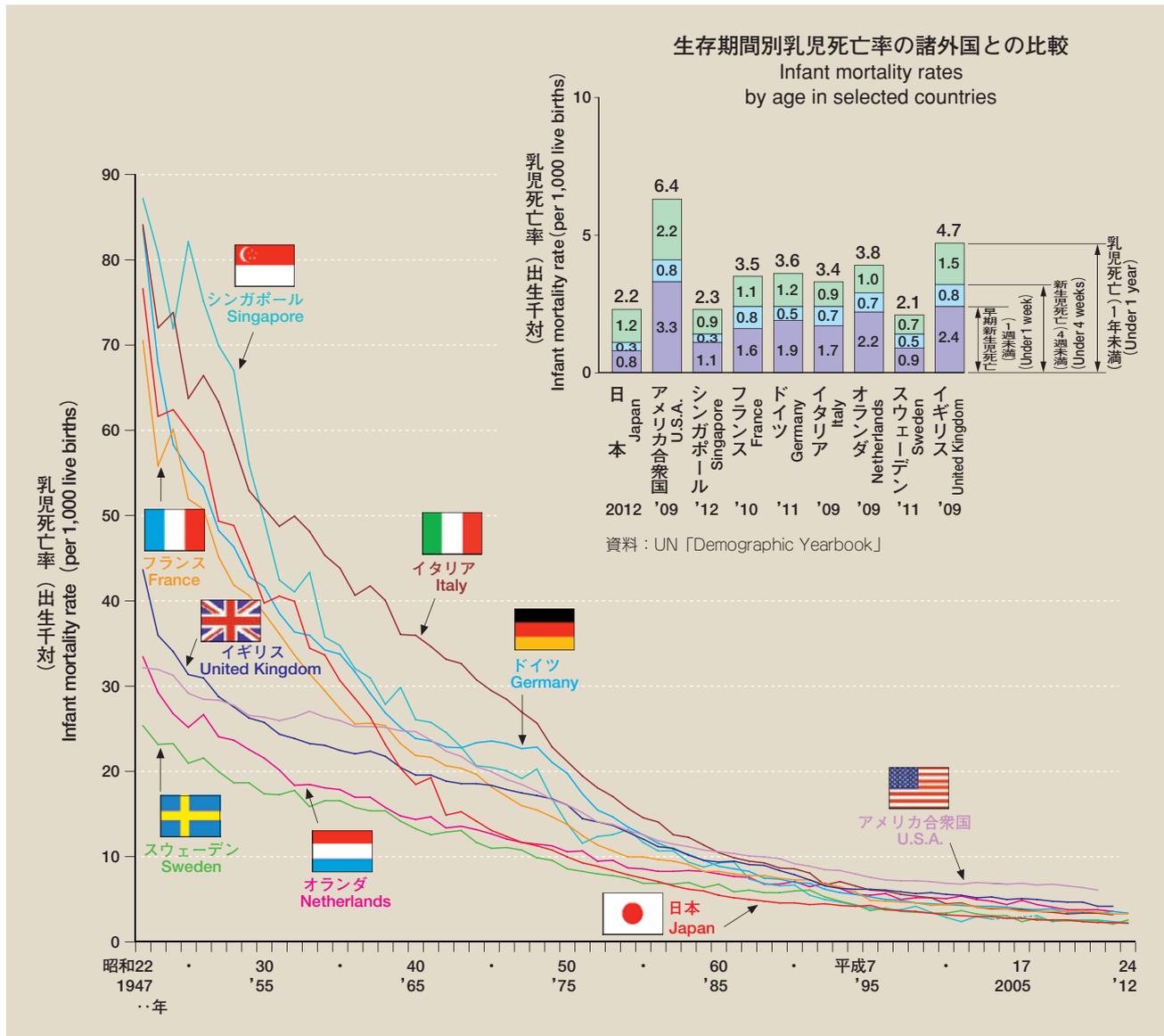
乳児死亡とは、生後1年未満の死亡であり、このうち4週（28日）未満の死亡を新生児死亡、1週（7日）未満の死亡を早期新生児死亡という。

平成24年の乳児死亡数は2299人、乳児死亡率（出生千対）は2.2となっている。

生存期間別に乳児死亡率の年次推移をみると、昭和40年代半ばまでは生後1週以上4週未満及び4週以上1年未満の死亡は急速に低下したが、近年は緩やかな低下傾向となっている。

平成24年の死因別乳児死亡数割合は、「先天奇形，変形及び染色体異常」が最も多く35.5%で、次いで「周産期に発生した病態」が25.4%となっている。

乳児死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年
 Infant mortality rates in selected countries, 1947—2012



注：点線は数値なし。
 ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
 資料：UN「Demographic Yearbook」

【乳児死亡率 最新年の数値】 Infant mortality rates

国	アメリカ	シンガポール	フランス	ドイツ	イタリア	オランダ	スウェーデン	イギリス
Japan	U.S.A.	Singapore	France	Germany	Italy	Netherlands	Sweden	United Kingdom
2012	2010	2012	2012	2012	2011	2011	2012	2011
2.2	6.1	2.3	3.3	3.4	3.2	3.6	2.6	4.2

我が国の乳児死亡率（出生千対）の年次推移を諸外国と比較したものである。
 1947年から1960年代初めまでの乳児死亡率は諸外国と比べて高かったが、その後は低下し、現在は世界でも有数の低率国である。